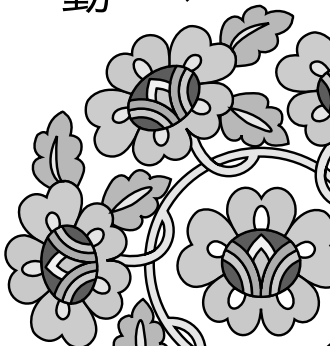


なまえのある家「わのわ」

目覚めた人から続けよう、
草の根の政治活動

近藤 夏織子



2012年12月16日。衆議院の総選挙の結果をみて、絶望や怒りを通り越して、放心状態になってしまった…。この新聞の読者の方々のほとんどは、そのように感じたのではないのでしょうか。期日前投票をして、選挙日は高知にいましたが、夕方、友人宅でニュースを知り、しばし頭の中が空白になってしまいました。

11月、解散が判明してからというもの、周囲の目を気にすることなく、私のフェイスブックとツイッターは、「選挙に行こう活動」一色でした。各政党の公約の紹介や、リンク先のシェアなど、3.11以降、放射能や原発情報を調べ続けてきたエネルギーを、選挙情報として、外へと発信していきました。署名活動をしてみえてきた限界を乗り越えるチャンスはもう総選挙しかない、と、覚悟を決め、大目的【脱原発と、戦争（物理的には憲法改正、経済的にはTPPや消費税増税など）回避】を達成するため、できることを探す日々。3.11前を反省し、党を超えて大同小異、協力して脱原発・反TPPを実現できる候補者を一人でも多く送り出すべし。「割烹着〜ず」で踊って、投票を呼びかけたり、共産党本部に電話して候補者調整の話し合いへの参加をリクエストして

長話したり、大和高原の若い仲間たちと「選挙に行こう活動」について話し合ったり。もちろん、会う人ごとに、投票を勧めました。そんな短期決戦の結果が惨敗とあって、「不正選挙」を確信しながらも、その夜はさすがに口数少なく、床に就きました。

翌日の夕方、奈良の自宅に戻って改めて、選挙結果を調べたところ、「不正選挙」だけでなく、今の選挙制度そのものの矛盾を痛感。やはり選挙は、付け焼き刃では太刀打ちできません。私は有権者になって以来、20年以上、出来る限り、ほぼすべての選挙に参加し、世直しを志向する候補者と党に投票してきましたが、今回は初めて、自ら投票するだけでなく、周囲にも投票を呼びかけました。でも、衆議院が解散してからの活動だと遅すぎたのです。多国籍資本の用意周到な陰謀、マスコミによる洗脳、不正選挙を逸らすには、常日頃から、徹底的に選挙活動を展開していくべきだったのです。北朝鮮独裁政権なみの強固な組織票に対して、たった数週間だけの選挙活動は、あまりにも甘かったようです。

実は衆議院解散前から、大和高原の仲間たちとともに、1月20日にドキュメンタリー映画『モンサントの不自然な食べ物』の自主上映会を準備し始めていました（場所：近鉄「室生口大野」駅から徒歩の室生地域振興センター、問合せeiga@yamato-daichi.net）。選挙が公示されてからは、みんなで「選挙前の上映の方が、TPPの勉強になって、よかったのにね」などと言っていました。ところが、投票日が過ぎてみると、政治への関心を持続させるためにも、やはり選挙後に上映する予定でよかったのだと思わざるを得ません。私たちは、今より先、以前にも増して、常に目覚め、繋がらなければならない。山本太郎氏のように、本当の思いを内外に語り、多様な一人一人が手をつなぎ合うことによって、世直しの気風を高めていくべき時代になったのです。大切なことは、何よりも、協力し合うこと。内部闘争に明け暮れた、かつての学生運動の過ちを繰り返せば、多国籍資本の思うつば。どんな辛い仕事でも、仲間と歌いながら取り組めば喜びに変わるように、多様な仲間とともに、世直し活動、政（まつりごと）に関心を持ち続ける日常を送っていききたいものです。脱原発、反TPP、脱マスコミの種を、日常のなかで蒔き続けま

しょう。組織票の基盤に対して、大地に種蒔く「草の根票」で創造する未来。テレビや新聞が演出する仮想社会にはない、本当の喜びへと眠れる人々を誘い、心の岩戸を開けてもらう。人を動かすエネルギーはお金ではなく、人の心、内なる神の心であることを、もう誰の目を気にすることなく、広げていけばいいのです。

さて今回の選挙を振り返るために、自民党が民主党に惨敗した前回2009年の総選挙のときと比較してみましょう。自民党は今回、比例で27.66%の票を獲得して31.63%の議席を取り、小選挙区では43.01%の得票で79%の議席をとりました。実際に得票した数より、小選挙区で35.99%も多く議席を獲得したわけですが。有権者全体からみると、「大勝した」とマスコミが煽る自民党を比例区で選択したのは、たったの16.33%だけ。さらに、割合ではなく、実際の得票数で比較すると、自民党は小選挙区で、大敗した前回よりも166万票減らしているのです。民意をより反映するとされる比例代表でみると、前回よりもさらに219万票減って12%の減少、公明も94万票減らしています。国民は、自民党を選んではいません。マスコミの「自民党の圧勝」という表現は事実ではありません。

さらに今回の投票に関して、不正選挙の情報がネット上に次々と投稿されています。あまりにも内容が多岐にわたるのでここでは紹介はしませんが、明らかに公職選挙法204条に基づく訴訟提起が可能なレベルのものも多々あります。

日々の草の根票運動のなかに、自民党は選ばれていないという事実の表明、不正選挙の解明・小選挙区制度の改正の要請、すべてを誘導したマスコミへの糾弾を、加えましょう。日本を軍事基地とし、経済的な植民地に貶めようとする多国籍資本とその飼い犬たち。そんなごく少数の金の亡者たちにはわからない、お金では買えない宝物をもっている私たち。卑下することなく、堂々と信念を表明していきましょう。

一人一人が目覚め、当たり前のように政治談義のできる社会へ向けて、次なる半年後の参議院選挙の準備を始めましょう。活動は始まったばかりです。私たちは、一人ではありません。日本を取り戻しましょう。